

京丹波町における須知高校のあり方懇話会（第3回）

会議概要

日 時 平成27年12月10日（木） 午後3時～5時
場 所 京都府立須知高等学校 会議室
出席委員 井戸委員、上田委員、江本委員、杉山委員、谷山委員、長谷川委員、平田委員

1 開会

2 座長あいさつ

参集のお礼を申し上げる。第1回目は須知高校の現状報告、第2回目は卒業生や保護者としてのご意見をもとに様々な意見交流を進めてきた。今回は、校種間連携の視点、また地域や行政の支援についての事例を報告いただき、限られた時間ではあるが検討を進めてまいりたい。（事務局の体制変更について報告）

3 懇話概要（※魅力ある須知高校のあり方や活性化対策について）

①井戸委員より、校種間連携事業の事例報告と意見提言

②松本説明者より、先進地（隠岐島前高校、海士町）における視察研修の報告

③質疑及び意見交換

委員：校種間連携は、生徒や教職員にとって「学んだことを他者に説明すること」の大切さと難しさを学ぶことにつながり、学んだ知識をいかに活用するかを意識できたことは特に有用であったと感じている。継続した実施を望んでいる。

委員：連携校の win,win の関係という点では、連携した学校間レベルはもちろん、その後の学びあった生徒レベルの人とのつながりの大切さも感じる。中学生にとって須知高校の魅力（地域とのつながり、しごとづくり、カリキュラムなど）が発信されることによって、キャリア教育の推進にもつながっていくと考える。

委員：校種間連携は、成長過程にある生徒にとって、成長のキッカケを与えてくれる事業である。感性に訴えるという点でも、大切な取り組みであると感じた。

委員：子どもに教えるという過程は、社会に出たときも必要となる能力であり、その経験ができるということは生徒にとって貴重で有用な経験となる。

委員：オープンキャンパスにも通じる非常によい取り組みである。須知高校に実際来ていただくということが大事なことで、部活動の面でも実施できる可能性があるのではないかと考える。

委員：事業実施に際しては、交通の便の確保など町教委には多大な支援をいただいた。なにより子ども達の自己肯定感の高まりにもつながったことが成果であると思う。

委員：様々な連携の中で、生徒たちが互いに学ぶ教えあうことを通じて、学習活動にやりがい具現化したことに大きな意義がある。さらに、町内における校種間連携や、行政と一体となった教育価値の創出につながるものが重要。今後、本町にある京都大学農場の活用について、町教育行政として相互に有用となる連携を検討していくべきではないか。

委員：町内中学校からの要請があり、須知高校教諭が学校に出向き高校進学に備えた授業を実施した。課題はあるが、この取組みが町内で広がると中学生の学ぶ意欲向上など相互に有用ではないかと考える。

事務局：現状では町教委として取組んでいないが、今後検討したい。

委員：良い取組みは、町教委としても連携して進めていくことが重要ではないか。検討を進めていただきたい。

委員：隠岐島前高校の取組みを、須知高校や京丹波町の実情に置き換えてどう取り組んでいくのか検討していく必要性を感じた。

委員：進路指導面など須知高校に対する中学校教員の意識改革も必要ではないかと感じる。生徒本人の意思もあるが、町内にある高校ということや魅力を伝えつつ、「須高学（まちの中の位置付けや人材育成機能）」「京丹波町ならではの学び（京丹波町学）」という特性を伝えていくことができればよいのではないかと考える。加えて、地域や企業が育てる「参加型」で須高学をさらに地域に広げられないかと考える。

委員：京都府立林業高等学校の誘致でも、16団体が参画し高等学校を支援していく体制を整えてきた。須知高校の活性化においても、まさに「オール京丹波」で取り組む体制が必要となってくる。

委員：実績を積み上げていくという点で、(先進地のような)何らかの取組（公営塾にかわるもの）が必要ではないか。地元中学生が地元の高校に通うことで郷土愛の醸成にもつながる。須知高校生が地域の中で認められ力を発揮していることを発信できれば、プラス面に働くのではないかと考える。

委員：学校のみならず、町をあげての仕組みづくりを考える場が必要。(子どもの数が減少して行く中で)あきらめない気概をもって取り組んでいくことが、今後のまちの将来に向けて必要なことである。

委員：先進地のような寮や塾といった施設・環境が整っているということは、恵まれた環境であると感じた。

委員：先進地の取組みは学生生活においても影響のある取組みであり、例えば「田舎留学」といったキーワードで、地域学を学べる授業を取り入れる取組みはどうか。

委員：次期京丹波町の総合計画においても、須知高校への支援などを踏まえた検討が必要であり、高校側としてもさらに地域に開かれた運営を検討していただきたいと考える。

5 今後のスケジュールについて

- ・次回懇話会について、2月第1週で別途調整する。
- ・これまでの意見を集約し、意見提言書を取りまとめていくことを確認。

6 閉会